



古澤 博之 議員

夜間における飲食環境の改善が必須

古澤議員

南阿蘇村は県内屈指の観光地であり、素晴らしい口เคーションや美味しい水と空気を求めて昼間は多くの観光客を出迎えると同時に、移住での出店者も飲食店、パン屋、雑貨屋、宿泊施設等を開業しSNSやメディアの取材、様々な情報発信を駆使する事で休日ともなると、とても賑わっている。しかし、夕方以降になると夕食を提供出来るような飲食店が極端に少なくなるという課題がある。素泊まりの宿泊客や、夕食を済ませてから帰宅しようとする観光客が「食べたくても店が開いていない」という不便を強いられており、結果として近隣他町村へ見す見す逃してしまっている状態がある。

これは以前から指摘されている問題であるが、飲食店側に夜間営業を打診しても人件費や光熱費などのコスト面から非効率であり、承諾は難しい現状がある。何らかの対策を行うべく私からの打開策（提案）を提示しつつ観光の村としてこの課題をどう捉えているのかお伺いしたい。

また、独自の解決策が既にあれば問う。

具体的な打開策の提案

1. 既存店への夜間営業補助：18時～21時などの夜間営業に伴う人件費や光熱費の増加分を補助。
2. 夜間特化型事業者の参入支援：夜間営業を主とする新規参入者に対し、初期投資の内装費（空き店舗含む）や厨房機器整備費の一部を助成。
3. 集合型店舗（フードコート・屋台村）の整備：空き店舗を活用し、複数の飲食店が集まる形態への改装費助成。

公平を期すために現在夜間営業されてるお店については、光熱費の一部助成などを行い、先日南阿蘇村と包括連携協定を締結した、スキマバイトマッチングサービス「タイミー」との連携による人材確保を積極的に活用する。更に商工会・観光局との連携を強化し、常に情報発信を行う事で出来るだけ長く村内に留まって頂くことが大事だと考える。夜間営業のお店がある事で、村民の皆様

にもどんどん利用してもらい、夜も賑わいがある活気ある村に出来るのではないかと推測する。

村の見解を問う。

買物支援対策補助事業を基に独自の施策を

村 長

予約なしで夕食を提供できる店舗の不足は村も認識している。現在、予約対応が可能な店舗は約15店舗あり、宿泊施設との連携で紹介を行っている。しかし、物価高騰や人手不足、食品ロスの懸念から、常時の夜間営業に踏み切れる事業者は少ないとの報告を受けている。

頂いた提案の中で飲食業への直接的な運営補助については、財政の健全性、タクシー業や小売業など他業種への波及効果や公平性を考慮し、現時点では慎重な判断が必要である。とはいえ、飲食店を含むサービス産業の底上げが村全体の活力につながるし、ナイトタイムエコノミー（夜間経済）の掘り起こしは大きなチャンスだと私自身も認識している。

今後の展開としては「タイミー」を活用し、2～3時間の短時間労働のマッチングを推進することで、雇用の促進になる事を期待している。また、今議会に上程した「買物支援対策補助事業」などで、買物弱者への課題を解決する新たな取り組みや新規開業への支援枠組みを活用していく。

また商工会と連携し夜間営業店舗や予約可能店舗の情報を観光客へ届けるための周知活動を強化していく。

古澤議員

私も小売業を営んでおり、お客様より頻繁にお尋ねがある。「夜に開いている店の情報を即座に提供できる体制」の構築を改めて要望する。

村 長

ナイトタイムエコノミーの掘り起こしが経済の循環や後継者育成につながるとの認識を示しつつ、南阿蘇の魅力である「美しい夜空、星空の景観」とのバランスを保ちながら、具体的な支援策を検討して参りたい。